

三芳合金工業

実質CO₂フリー電力導入

再生可能 エネで調達 低炭素化に貢献

特殊銅合金メーカーの三芳合金工業(本社、埼玉県三芳町、荻野源次郎社長)は実質二酸化炭素(CO₂)フリーの電力を導入する。再生可能エネルギーによる電力を使うことで低炭素化に貢献す

るのが目的。導入にあたって埼玉県と東京電力エナジーパートナーが共同で取り組む「彩の国」の再生可能エネルギーを活用する。4月1日から1年間の契約で、年間使用電力のうち約3分の1を賄う予定

だ。今後はさらに再生可能エネルギーを使う電力の活用を進めるとしている。三芳合金工業では年間約300万kWhの電力を使っており、導入後は約100万kWhの時間を埼玉県内の再

生可能エネルギーから調達。電気料金が1kWh当たり約2円上昇するものの、年間のCO₂排出量を442ト削減できる。荻野社長は「電力コストは上昇するが、CO₂排出量削減のため会社ができ

ることとして取り組むべきと考えて導入した」と話す。「彩の国」の再生可能エネルギーを「彩の国」は実質CO₂フリーの電力メニューを適し、県内からの再生可能エネルギーを提供するモデル。モデル構築にあたり全国で初めて非化石証書を活用した都道府県産CO₂オフセット電力メニューを創設した。

電力は県内の卒FIT(固定価格買取制度)の買取期間が満了した住宅用太陽光発電)による余剰電力から調達する。他に、県下水道局のメガソーラーで発電した電力も埼玉県が取りまわし供給。その際は電源種別や発電所所在地などのトピック情報も付与した非化石証書を付して県内企業に提供する。

電力メニューの利用で企業イメージの向上につながるほか、県が埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度で供給先企業をPRする。国際イニシアチフであるRE100、埼玉県の条例で定める目標設定型排出量取引制度にも適用できる。

三芳合金工業は、これまで加熱炉を重油炉からガス炉に更新して年間のCO₂排出量を88%削減した。熱処理炉や鍛造工程での設備更新も加え、年間750ト以上のCO₂を減らした。2018年には溶解炉を重油炉から電気炉に変更して年間100ト以上のCO₂削減を実現した。